

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：アートとコミュニケーションデザイン ILAS Seminar :Art and Communication Design			担当者所属 職名・氏名	経営管理大学院 特定准教授 蓮 行 経営管理大学院 特定助教 末長 英里子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール (対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	25 (15) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	1共26			使用言語	日本語
キーワード	デザイン学関連 / コミュニケーションデザイン / アート / コミュニケーション / 演劇						
[授業の概要・目的]							
不確実性が高く将来の予測が困難な現代社会においては、個人およびあらゆる規模の組織が、学び続け、変革し続けることが求められている。しかもそれは、高度に社会化された現代では「他者との協働」によって行われなくてはならない。そして、「他者」は多様化しており、「多様性の理解」も極めて重要である。 そんな時代に「アート」が注目を集めている。アートには、「ゼロから何かを作り出す」や「価値の評価が困難（役に立つのか立たないのかわからない）」といった性質がある。これを、社会のあらゆるシーンで活用しようとする世界的な潮流がある。一方で、「役に立つのか立たないのかわからない」という性質を持つ「アート」を社会化する（何かの役に立つようにする）ためには、デザインが必要でもある。デザインという幅広い領域の中で、他者との協働を志向する上では、とりわけ「コミュニケーションデザイン」が重要である。 アートといっても、美術、工芸、音楽、映像、身体表現芸術など、多種多様なジャンルがある。この授業では、担当者の専門領域である身体表現芸術を中心としつつ、ゲスト講師を招聘して多様なジャンルのアートを体験してもらう予定である。アートを媒介とした他者との協働を実際に体験してもらい、省察と議論を通じて、その方法を学んでいく。アートを介すると自分や他者がどんな反応をするのか、コミュニケーションデザインとはどのようなアプローチか、アートをビジネス等のシーンにどう活かせるのか。このような問いについて、体感しながら議論してもらう。 当講義はゲスト講師の担当回がある可能性があります。							
[到達目標]							
(1) アートを媒介した他者との協働を実際に体験し、その特性を理解する。知識として理解するのみでなく、具体的な状況における自らの体験に即して理解する。 (2) グループで「学び続け、変革し続ける組織」をつくるためのデザインを考案・実践することを通じて、アートとコミュニケーションデザインの基本的な方法を実践的に習得する。							
[授業計画と内容]							
授業計画と内容は、学習者が能動的に活動し、課題の探索、発見、解決を試みるPBL/FBL型(問題発見型/問題解決型)で進行するものとし、以下を予定している。ただし、受講生の様子を踏まえ、必要に応じて動的に計画を見直しながら授業を進める。なお、外部との交流の機会を設定する可能性もある。 第1回/第2回/第3回 導入、チームビルディング 第4回/第5回/第6回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説 第7回/第8回/第9回 グループワーク①：小作品の創作と発表及びディスカッション 第10回/第11回 アートを媒介とした協働活動のアクティビティ体験とデザインの解説 第12回/第13回/第14回 グループワーク②：「学び続け、変革し続ける組織」のためのデザイン実 ILASセミナー：アートとコミュニケーションデザイン(2)へ続く↓↓↓							

実践と講評、及び、授業全体を踏まえた振り返り
第15回 フィードバック

※当講義はゲスト講師の担当回がある可能性があります。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席と授業参加 20%
グループワーク①の取組 20%
グループワーク②の取組 20%
最終レポート 40%

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

平田オリザ・蓮行 『コミュニケーション力を引き出す』(PHP新書,2009) ISBN:456977105X
蓮行・平田オリザ 『演劇コミュニケーション学』(日本文教出版,2016) ISBN:4536600833
谷口忠太・石川竜一編著 『コミュニケーション場のメカニズムデザイン』(慶應義塾大学出版会,2021) ISBN:4766427734

[授業外学修(予習・復習)等]

(任意で取り組んでいただきたい活動)

本授業をきっかけとして、劇場での観劇、美術館・博物館での鑑賞、小説の鑑賞など、普段は触れたことのなかったアート作品に触れる機会をもっていただければと考えている。

[その他(オフィスアワー等)]

事前にメールでアポイントメントを取っていただき、随時対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

Mail: reng.acgm★gmail.com

★を@に変換してください

・何かしらのアートに触れたり、芸術作品を創作するという体験は、世界的に注目されている一方で、「わざわざ機会を設定する」ことなしにはできない体験でもある。個人創作もなかなかできない経験だが、グループでの共同創作はなおさら希少な機会である。大学で学ぶという貴重な学習機会に、ぜひアートにも取り組んでいただきたい。

・履修要件は特になし。芸術活動一般や身体表現芸術(演劇、ダンスなど)の経験等も問わない。

[主要授業科目(学部・学科名)]